

投資妙味を増すハイイールド債

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

ハイイールド債は、年初から概ね堅調な推移が続いていたものの、9月以降軟調な展開となっています。

米国の景気回復傾向を背景に、9月に米国の金利が早期に引き上げられるとの観測が高まり、債券市場の価格形成の指標となっている米国10年国債利回りが上昇(価格は下落)したことで、ハイイールド債は下落基調となりました。10月に入り、IMF(国際通貨基金)により世界の成長率予測が下方修正されたことなどから、リスク回避的な動きが強まったことで、ハイイールド債は更に下落しました。

しかし、この間、ハイイールド債を発行している企業(発行体)のファンダメンタルズが急に悪化したという訳ではなく、緩やかな世界景気回復傾向を背景に健全性を維持していると見られ、ハイイールド債のデフォルト率も引き続き低水準となっています。それに加えて、先進国で続く金融緩和は、発行体の財務改善を通じて信用力の向上をもたらすことなどから、ハイイールド債にとって追い風となっています。このため、足元の価格下落は、利回り面から見ても、ハイイールド債の投資妙味を高めていると考えられます。

地域別に見ると、新興国は、全般的な景気がやや弱含むものの、金利は概ね落ち着いた状況にあります。米国は、景気回復を背景に来年には利上げが予想されるものの、そのペースは緩やかになると見られています。欧州は、景気回復が鈍いことから、金利は低位に推移すると見られます。こうしたことなどを背景に、先進国の低金利はしばらく続くことから、高利回り資産に対する需要は続くと考えられ、なかでも利回り水準が比較的高い新興国などのハイイールド債への注目が高まるものと期待されます。

ハイイールド債(地域別)のパフォーマンスの推移

(2014年1月初～2014年10月24日)

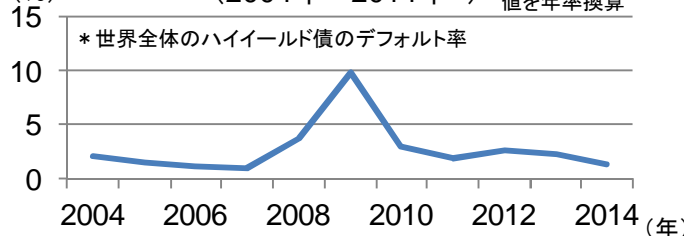
(%)



ハイイールド債のデフォルト率の推移

(2004年～2014年※) ※2014年は6月までの値を年率換算

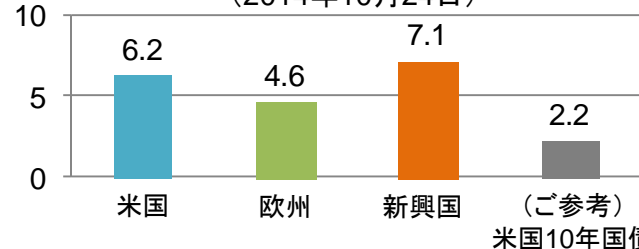
(%)



ハイイールド債(地域別)の利回り

(2014年10月24日)

(%)



米国ハイイールド債: BofAメリルリンチ米国ハイイールドマスターⅡ(米ドルベース)、欧州ハイイールド債: BofAメリルリンチ・ユーロ・ハイイールド(ユーロベース)、新興国ハイイールド債: JPモルガンCEMBIブロード・ディバースィファイド・ノンインベストメント・グレード(米ドルベース)

(S&Pなど信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成)

※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■ 当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■ 投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。